

新しい蓮田の未来を創ります!

市民クラブ未来

蓮田市議会報告

2024.7月号
Vol.5



会派代表 3期

菊池 よしひと

蓮田市大字蓮田1032-5
TEL・FAX:048-768-8381

建設経済委員会委員長



2期

斎藤 斉

蓮田市東1-4-21
TEL・FAX:048-768-4308

民生文教委員会委員
埼玉葛斎場組合議会議員



1期

武藤 やすし

蓮田市大字黒浜3110-35
TEL・FAX:048-764-2662

民生文教委員会委員
議会運営委員
蓮田白岡衛生組合議会議員



副議長 2期

はた くに お

蓮田市馬込1-350-8
TEL・FAX:048-764-0998

総務委員会委員
(副議長は慣例により会派に属さないこと
となっておりますが、本会派設立の経緯か
ら共に報告させていただきます。)

はた くに お 一般質問

令和6年6月議会におけるはた くに おの一般質問は、「**環境学習館・黒浜沼周辺の環境行政について**」です。市は巨費（建設関連約6.6億円、土地の取得関連がトラスト地を含め約9千万円）を投じ環境学習館の建設を進めているものの、未だその運営方針を明らかにしていません。その一方で、これまで黒浜沼周辺の環境保全に大いに尽力されてきた「**NPO法人 黒浜沼の自然を大切にする会**」や「**ホタルの里の会**」の方々は、高齢化等から今後はこれまでと同様の活動はできないと考え、独自の案を示しながら、市に対し今後の考えを明らかにするように申し入れて来たところ。自然環境の保全を総合振興計画に掲げている蓮田市にとって、新環境学習館の活用と黒浜沼周辺の素晴らしい自然環境の保全は、大きな課題となっています。

一般質問では、来年夏にオープンする新環境学習館のイベントとして、**ホタル観賞会**や**トンボ観察会**を提案しました。

質問 環境学習館の今後の運営方針は。

答弁 新環境学習館での座学の後に黒浜沼周辺の恵まれた自然環境を見て触れることができる講座など、自然環境に接しながら学習が行えるメリットや自然環境を直接感じられるイベントの開催など、数多くの可能性を秘めています。また、環境学習に特化した施設は県内に数少ないことから、このような利点を最大限生かしPRを行い、市民の方々に分かり易く、かつ専門的な講座やイベントを企画してまいりたいと思います。一方で、地域のコミュニティ活動にも十分活かせるよう検討してまいります。

質問 当初計画にあった**展望台**について、**バードウォッチング**も兼ねたものを黒浜沼近くに造ることはいかがか。

答弁 建物設計の企画段階では黒浜沼を一望できる展望台を検討していましたが、近隣へのプライバシーの配慮により設置を断念しました。今後別の場所への設置等も含め調査・研究してまいりたいと思います。

質問 木道の棄損や沿岸の侵食などもあり、黒浜沼やその周辺地域の管理についての考えは。

答弁 外来種が繁殖してしまうなど十分な管理はできていませんでした。今後につきましては、現時点では、除草業務等は市が業者に委託発注し、外来植物対応や希少植物の保存等については、黒浜沼の自然を大切にする会等と相談し、トラスト地内の環境保全に努めたいと考えております。また木道の修繕・管理や沿岸の保全につきましては、関係者と協議して危険な状況にならないよう努めてまいります。



(注)ホタルは7月中旬～8月初旬頃まで観賞できます。環境学習館の工事に伴い黒浜沼駐車場は狭くなっていますのでご注意ください。

6月議会では、昨年6月の初質問3項目について、1年を経て市としての対応や政策等への反映はその後どうなったのかを振り返る質問を行いました。市の考え方に何か変化はあったのでしょうか？

1. 令和6年度蓮田市一般会計予算「当初予算の概要」について

質問 予算の概要の基本政策別事業で今年度記載されている金額は131億円。昨年度の記載額99億円とは大きな違いがあるが理由は。

答弁 当初予算の説明にある事業は、新規事業や市民に身近な事業など市としてPRしたいものを記載しており、年ごとに内容が違うものです。

質問 3ヵ年実施計画の事業額は87億円で一般会計予算の41%。実施計画が市政の中身を十分カバーしていると言えるのか。

答弁 予算には人件費、公債費(市債償還)など定常的な経費があり、総振が市の政策をカバーしていないとは考えていません。

予算説明の手法や資料は、従来から作成側(財政)の都合や慣例によって作られていて、読み手(議員や市民)にとって全体像がわかりにくく、予算の内容をきちんと把握できにくい状況が続いています。(むしろ市にとってはそれが狙い?)
今後も**市の説明の「わかりにくさ」をしっかりと解明し、責任ある審議に繋げる**ように取り組んでいきます。

2. シティセールスについて

蓮田市の認知向上には市外・県外の人々へのアピールや話題の提供が重要で例えば「農業知識者の力を借り蓮田の梨をもっと美味しく」「パードウオッチャーによる黒浜沼の活況化」など**市の認知向上の具体的な目標を作り、外部も含めた多くの知恵で活動を進めることを提言**しました。

3. PPP/PFIについて

質問 今後公共施設等の整備においてPPP/PFIという民間の力を活用していく方針はあるのか。

答弁 PPP/PFIを検討する上で、これを事業手法の一つとして他の手法に優先して検討の対象とするなどの手続きを定める規程の整備を進めている。

質問 既存事業を含めた検討において庁内のPPP/PFI手法活用への認識共有の状況は。

答弁:副市長 今後大規模工事においては設計・工事の一体化による効率的な事業化をすべく検討を進める必要があり、PFI活用のルールについての職員の意識づけ、そして現実の事例作りが大事ではないかと考えています。

PFI優先検討の規程を作るなど1年前の質疑からPFIに対する**市の考え方は前向きな方向に変化してきた**と思えます。今後は現実の事業にいかにか活用していくかを注目していきます。

4. 公共施設等におけるコスト縮減について

質問 公共施設整備の費用を縮減するためには、DBO(設計・工事・維持管理の一体委託)の活用が有効と考えるが、今後の導入の考え方は。

答弁 現在整備を進める規程の中で、検討すべき基本手法の一つとしてDBO方式を採用することを検討しています。

質問 市の公共施設におけるLED照明化の完了見込みは。

答弁 現在、学校以外の公共施設LED化完了12/42施設。街路灯は97%完了。学校関連では完了2/29棟、体育館では完了6/13棟となっています。完了時期の明示は難しいが、蛍光灯の製造中止や電力料金の高騰もあり早急に整備できるよう進めていきます。

質問 他市では「初期費用、新規財源ゼロのリース方式」を実行している事例が複数あると聞いている。工事を後回しにすることは、市民の税金を必要以上に電力会社に払っていることになる。施設の閉鎖期間や他の工事との重複などの検討は必要なものの「すぐ実行」しない手はないと思うがいかがか。

答弁:市長 蛍光灯問題を考えると急がねばならないものです。リース方式は市としても小中学校のエアコン導入で経験を有しており、できるだけ速やかに検討に着手しようと思います。



イメージphoto

事業手法検討の主要方式の一つとして**DBO方式が規程に定められれば総事業費の縮減や民間の知恵の導入につながり**進歩だといえます。今後の事業を注視します。またLED照明化は初期投資・新規財源なしで着手でき、市の総費用(税金の支出)の削減になりますので、**早急に開始する計画が策定されるよう関係部署に働きかけて**いきます。



イメージphoto



イメージphoto

6月議会では質疑と一般質問で「令和6年度蓮田市総合市民体育館大規模改修及びサブアリーナ増築工事」の契約に関する質問を行い、一般質問ではさらに「入札契約制度」について質問を行いました。

1. 令和6年度蓮田市総合市民体育館大規模改修及びサブアリーナ増築工事（建築工事・電気設備工事・機械設備工事）に伴う入札について

上記入札工事が建築工事（16億3800万円）、電気設備工事（6億4780万円）、機械設備工事（7億7100万円）で令和6年5月14日に落札となりました。市内事業者育成のためとの理由で市は、建築・電気設備・機械設備工事と3分割をして入札を行いました。今回の入札では市内事業者が工事を受注するには至りませんでした。6月議会ありきで進められた今回の入札について質問を行いました。

質問 特定JV（蓮田市特定建設工事共同企業体）の募集期間及び募集の周知方法は。

答弁 特定JVの募集の案内を、市のホームページにて、令和6年3月21日に開始、受付の終了は3月29日でした。

説明：土日も含めて9日間と短く図面や仕様書もない状態でJVを組むのは非常に困難であると予想されます。

質問 特定JVでの参加申請は何件あったのか。

答弁 特定JVでの参加申請は、入札公告前の募集に応募の機械設備工事1件です。

質問 特定JVの募集を入札公告前に締め切った理由は。

答弁 全体のスケジュールを考えました。

説明：6月議会ありきでスケジュールを組んだことがわかりました。

質問 機械設備工事の入札参加条件を管工事730点（A級B級）とした理由は。

答弁 工事ランクの隣り合うランクを選定可能のため、AランクとBランクの業者を選定。

質問 B級事業者が単独で工事を行う場合のリスクは考慮したか。

答弁 今回の工事では、過去5年間に4000万円以上の公共工事の実績があることが条件のため、公共工事に一定の成果と実績がある事業者が対象。

説明：入札参加資格要件の業者ランクの設定は、『蓮田市建設工事指名業者選定基準』に基づき、「機械設備工事（管工事）」では、設計金額が4,000万円超の場合はA級となっています。普段は設計価格4,000万円以下の工事を行っている事業者が工事を行った場合は、工事が途中で止まってしまうリスクなどが非常に高いといえます。

質問 入札期間のうち質疑回答予定日が5月9日木曜日で入札受付締切日が5月13日では平日が3日間しかない。これで問題はないか。

答弁 公告のなかでは9日が回答予定となっていました。質問には回答予定日までためずに随時お答えしていた。少ないという認識はありません。

説明：億単位の工事の質疑回答予定日から3日間で入札を行うのは日程的に無理があります。

上記質問以外にも多くの質問をさせていただきました。また、インフラの老朽化が進んでいる現状では、市内事業者の育成や連携を考慮した公正な入札を行うよう提案、質問をさせていただきました。



2. 公園トイレの改修工事について

質問 堂山公園のこれまでの入札結果および現状は。

答弁 1度目の入札は、令和5年6月5日に開札を行ったが、応札者が居なかったため入札の執行が中止となり、2度目の入札は、令和5年8月8日に開札を行ったが、再び応札者が居なかったため入札の執行が中止となった。3度目の入札は、令和6年2月7日に開札を行い、1者の応札がありました。予定価格超過により不落となったため入札の執行が中止となり、4度目の入札は、令和6年5月31日及び令和6年6月3日に開札を計3回行った。2者の応札があったが予定価格超過により不落となったため入札の執行が中止となった。4回目の入札後に地方自治法施行令第167条の2第1項第8号に規定される随意契約、いわゆる不落随契を行った。

質問 1回目の入札時の設計価格、随意契約時の1㎡当たりの単価はいくらか。

答弁 1回目の設計価格は98万2千円、随意契約では、123万7520円です。

説明：約2年間で4回もほぼ同様の内容の入札を行いました。小規模な工事でも大規模な工事でも一現場につき一人の現場代理人を配置しなければならず利益率が低くなる事。働き方改革により工事期間が長くなり人員を確保出来ない事などから、工業者が工事を受注出来ない。などの理由が考えられます。私は小規模な工事を複数合わせて1つの案件として入札を行うことによりスケールメリット及び準備費や共通仮設費などのコストカットができると提案をしました。

他に、「少額の随意契約の特例について」、「小学校のトイレ改修について」質問をしました。



1.道の駅「はすだ」推進事業について

道の駅とは、ドライバーだけでなく誰でも24時間無料で利用できるトイレや駐車場があり、しかも農産物直売所や食堂等もある休憩施設のことで、さいたま栗橋線沿いにはなく、国道122号線沿いでは、利根川のスーパー堤防上にある「道の駅はにゅう」までありません。

そこで私は、蓮田市の第5次総合振興計画の中に、道の駅が推進事業として取り上げられていますので、質問させていただきました。

「道の駅」が出来て31年。現在全国47都道府県全てにあり、1,213駅まで増え（埼玉県内では20駅あり本庄市が準備中）、今年年間延べ2億人以上が利用。**道の駅自体が目的地、観光地化**していて、22施設で年間売上高が10億円以上、32施設が100万人以上の利用客を集めています。

あの企業版ふるさと納税（令和5年9月議会で一般質問済）で、令和2年度の10万円から翌年の令和3年度では、3.8億円を集めたとされる**前橋市**が、今度は「道の駅」で大ヒット。去年令和5年3月開業した**「道の駅まえばし赤城」**は群馬県内で33ヵ所目、前橋市内では何と4ヵ所目の道の駅。24時間利用できるトイレとコンビニエンスストアもあり、農畜産物の直売所や子供が遊べる芝生の広場や温浴施設等を備え、災害発生時には広域防災拠点として機能する予定。年間来場者数は当初30万~100万人を目標としていたが本年令和6年3月、開業から1年で430万人、想定を大幅に上回る来場者を集め、来場者数日本一の道の駅となりました（売上高も日本一と推測されます）。

これは、やり方だけで多くの来場者楽しくお金を使っていただき、街の中心拠点として、雇用と地域の活力を生む道の駅の成功例ではないでしょうか。この「道の駅まえばし赤城」の好成績は、十分に研究・検討にあたいする事だと思えます。

また、世界に類をみない、日本で生まれ、独自に発達し、発展し続けている道の駅が、東南アジアの**インドネシア**や**タイ**でも「日本の道の駅」をまねて普及し始めているとのこと。

私達の街「蓮田」は、とても住み良い所ですが、特色のない街でもあります。パルシーやハストピア、あるいはサービスエリアだけではなく**新しい賑いの場、集いの場として圧倒的に集客力のある「道の駅」**に私は魅力を感じますが、「道の駅」を作るには、用地の選定・確保に始まり、何んといっても大きな財源とエネルギーを必要とし、いろいろと越えなければならない高いハードルがあることも容易に想像ができます。そこで

質問 進捗状況は。

答弁 県内外の道の駅の視察、フォーラムへの参加、候補地選定など、事業化の研究をしている状況です。これまでの研究過程において、施設用地の確保、施設整備のための財源、維持管理するための経営や運営手法等に、様々な課題が見えてきており、道の駅「はすだ」推進事業は、慎重に進めなければならないものと考えています。

質問 新しい雇用や収入源を生む街の中心拠点としての道の駅を作るため、強力な推進プロジェクトチームを編成する計画は。

答弁 これまでの研究過程で見えてきました様々な課題に鑑み、現段階では、プロジェクトチームを編成する計画はありません。

2.サービスエリア活用事業について

道の駅同様蓮田市の第5次総合振興計画に取り上げられていますので質問させていただきました。

質問 農商工連携により地元農産物並びに加工品の販売等による地域活性化の推進について成果は。

答弁 高速道路利用者並びに市民の方々に地元で採れた新鮮な野菜を提供することで、蓮田産農産物のPRを行えると共に、出荷する農業者の販路を確保し、所得向上を図ることが成果であると考えています。

質問 今後のさらなる方策は。

答弁 サービスエリアは、蓮田の特産品等を多くの方々にPRできる貴重な場所なので、東日本高速道路(株)NEXCO東日本とそのグループ企業や、各関係団体のご協力をいただき、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止となっていた、地域活性化のためのイベントを再開したいと考えています。

